

就活に成功した22卒が語る！
納得のいく内定を獲得する奥義3つ



【壺ノ型】



～志望業界～
絞った人、絞らなかった人

志望業界を絞った人

メリット

① 業界・企業研究がしやすい

他社比較がしやすく、就活の軸や志望動機を固めやすい

② 特定の業界に対する理解が深まる

業界全体の動向がつかめる

③ 就活において負担が軽減される

キャリアプランを考える時間が多く確保できる

デメリット

① リスクが大きい

予測不能な事態に対応できない（航空業界など）

② ミスマッチの可能性を防ぎにくい

「自分のやりたいこと」への先入観で、自分に合わない業界を選択している可能性がある。

③ 内定後に不安になる場合がある

絞った業界「本当に」正解だったのかわからない。

デメリット解消法

リスクが大きい

業界を絞るとはいえ、1つではなく2つ以上は見ておく。
第一志望の業界と同じくらいの対策を行う。

ミスマッチの 可能性

この業界が自分に合っていると思う理由を言語化する。
自分のやりたいことへの先入観フィルターがかかっていることを理解した状態で就活を進める。

内定後の後悔

自己分析の質を高める。
この業界の志望理由を含め、今後のキャリアプランや、その企業で実現したいことを明確化する。

志望業界を絞らなかった人

メリット

① 社会に対する知識が深まる

業界のトレンドや社会的立ち位置等を自然に理解できるようになる。

② 多くの業界を知った上で就活ができる

本当に自分が行きたい企業が見えてくる。

③ 内定後の後悔がなくなる

やっぱりこの業界は自分に合わない」と感じた時に、異なる業界にシフトしやすい。

デメリット

① 最終面談で志望度を上手く示せない

最終までの面接で性格のマッチ度は認められても、志望度をうまく示せない

② 志望動機を考えるのが大変

業界が幅広いため、業界研究などの時間を取られる部分が多い。

③ 就活に費やす時間が長い

業界・企業研究など、その業界に合わせた対策が必要になる

デメリット解消法

志望度を示せない

最終面接の事前準備を徹底して行う。
志望動機を具体化する。（なぜその業界、企業なのか。入社後にしたいこととその理由）

志望動機を考えられない

「就活の軸」から志望動機を構築していく。
企業研究をする上で見るポイントを定める。（例：事業内容、理念、社風等）

費やす時間が長い

業界を絞らないとはいえ、全業界を見るのではなく、多くても5つほどピックアップした状態で本選考に進む。



両者の本選考～内定まで



	絞った人	絞らなかった人
エントリー企業の 選択方法	志望業界の中から 20~30社 ピックアップ (規模や売り上げ順など)	気になっている業界TOP3の中で 企業を10社 ずつピックアップ
内定承諾企業の 決め方	内定先の中で 一番志望度が高い企業 を承諾する	自分の 譲れない条件 を決め、 そこに近い企業を承諾する (社風、勤務地、福利厚生、給与等)

結論

志望業界は絞っても、絞らなくても良い！

→自分に合った方法を取り入れる